

平成24年度北海道大学情報基盤センター共同研究成果報告書

1. 研究領域番号 A6 教育情報メディア
2. 研究課題名 学習者のモバイル環境を意識した情報倫理教育の研究開発
3. 研究期間 平成24年4月23日 ～ 平成25年3月31日

4. 研究代表者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
中村 純	広島大学 情報メディア教育研究センター	教授	

5. 研究分担者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
岡部 成玄	北海道大学 情報基盤センター	特任教授	
山之上 卓	鹿児島大学 学術情報基盤センター	教授	
辰己 丈夫	東京農工大学 総合情報メディアセンター	准教授	
深田 昭三	愛媛大学 教育学部	教授	
多川 孝央	九州大学 情報基盤研究開発センター	助教	
村田 育也	北海道教育大学 教育学部旭川校	准教授	
山田 恒夫	放送大学 ICT活用・遠隔教育センター国際連携部門	教授	
中西 通雄	大阪工業大学 情報科学部	教授	
布施 泉	北海道大学 情報基盤センター	教授	

6. 共同研究の成果

私たちは、情報倫理教育のための教育コンテンツとして、ビデオ教材を継続的に開発してきた。これらの教材は、各種発表で受賞し、大学生協が販売する学生用のコンピュータにプレイインストールされる等、内外での評価は高い。平成24年度は、大学ICT推進協議会の経費を得て、新規のビデオ教材を開発した。当該ビデオの内容は、本共同研究の議論を生かし、学習者のモバイル環境が整備され、SNS やつぶやき等、ソーシャルメディアを通じて情報がやりとりされる時代に、どのような情報倫理教育が求められるかを議論・検討した上で、それらを教材として反映させたものである。

本研究では、学習者のモバイル環境をテーマに、意識調査、教材シナリオの開発、教材視聴と学習手法の検討を行うことを目的としている。先のビデオ教材の開発の他、本年度の成果を下記にまとめる。

- 意識調査では、大学生の情報倫理にかかわる意識と行動が、情報メディア経験と情報倫理教育によりどのように変化するか等の調査に関わる分析を行った。性別、日常的倫理意識、情報メディア経験、情報倫理教育経験との関係を検討し、女子学生は情報倫理判断・行動が男子学生よりも倫理的であること、日常的倫理意識は情報倫理に強い影響を与えること、実用的なメディア利用が多い人は情報倫理判断・行動が倫理的であることが明らかになった。本研究は、論文として採録が決定している。

(研究成果のつづき)

2. 教材シナリオの開発に関しては、モバイル環境におけるトラブル事例を収集し、それを元にしたシナリオを開発することを検討した。事例収集のために、上記の情報倫理ビデオ教材で共著者である上原哲太郎氏(NPO 法人情報セキュリティ研究所)による講演会「ビッグデータとプライバシー」を研究打ち合わせに合わせて開催し、知見を広げた。特に、本講演会では、行動ターゲティングによるマーケティング手法の現状をまとめるとともに、自己情報コントロール権をどのような視点で考えていくのかを含め、諸外国における動向が紹介された。それらの知見を元に、続いて行われる本共同研究の研究打ち合わせにおける次期の情報倫理教育教材の検討を進めた。
関係して、新しく開発した情報倫理ビデオ教材を補完するためのマンガ教材等の開発を進めている。
3. 教材視聴に関しては、これまで開発してきた情報倫理教材をモバイルで活用するための手法を検討し、視聴前後に行うチェックテストをどのように行うかについての検討を進めた。
4. 研究打ち合わせと検討を行い、教材タイプとして、これまで開発してきたビデオ、マンガの他に、絵本タイプの教材を開発することで意見がまとまった。平成25年度の開発を目指して、現在、開発中である。